

『日韓文化財論集Ⅳ』の刊行

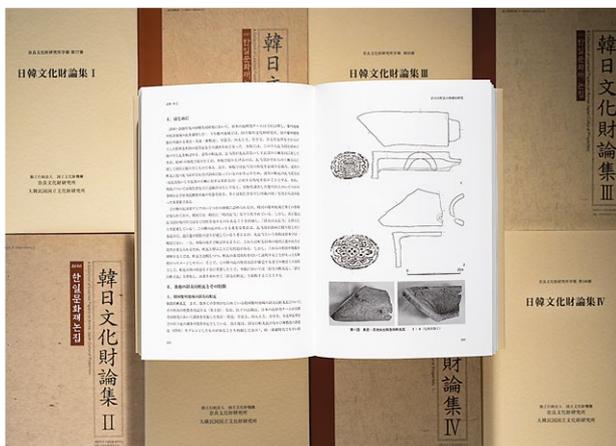
奈良文化財研究所では、韓国国立文化財研究所と1999年に共同研究協約書を締結して以来、共通した研究課題のもとで研究員を相互に派遣し、調査・研究を進めています。

今回、2016年度から実施してきた第4次共同研究「日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究」の成果をまとめた『日韓文化財論集Ⅳ』を刊行しました。この共同研究では、研究パートナーをつくり、お互いの調査に随行し、まさに寝食をともにしながら調査過程も共有することで、研究課題の着眼点や調査手法を相互に理解し、議論を深めながら、成果を蓄積してきました。

その結果、日韓古代の石工技術、日韓の古墳築造技術、金属器・土器・瓦の製作技法の比較、土器の付着物分析、木簡、都城制と寺院、伝統造景空間の比較等、総勢23名の研究員による12本の研究成果を収録した論文集となりました。

なお、本書は韓国でも同名で刊行されており、2008年度から数えて日韓各4冊、総8冊のシリーズとなりました。こうした積み重ねが相互理解を深め、研究のみならず、継続的な人的交流に着実に繋がっていると考えています。

この4月からは、新テーマのもとで新たな共同研究が始まりました。新型コロナウイルス感染症により、国内外の現地調査が大幅に制限された現在、どのように共同研究を進め、その成果を蓄積していいのか、模索しながらのスタートとなりますが、5年後には、さらに多彩で、充実した研究成果を盛り込んだ『日韓文化財論集Ⅴ』の刊行をお知らせできればと思います。（都城発掘調査部 松永悦枝）



日韓両国で刊行された『日韓／韓日文化財論集』